

編集後記

ここに、びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第17号をお届けいたします。本号には、課題研究論文1編、自由研究論文が4編、研究報告が1編、アカデミックアワー研究報告が5編、が掲載されており、本学の学術を代表する研究報告が納められております。本号を発刊するにあたり、ご協力を賜りました皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。誠に、ありがとうございました。

さて、昨今の社会情勢を鑑みると、先の見えない不安と目前の取り組みへの焦りに困惑している方が多いのだらうと察しております。新型コロナウイルスの感染拡大を予防すべく、本学も対面授業から遠隔授業へ切り替わり、学術活動を、一時的ではありますが凍結せざるを得ない現状下にあります。本当に大変な世の中になりました。

そのような中であっても、本学のアカデミアを発展させるべく、次号の企画を水面下で進めております。逼迫する社会情勢の中にあって、スポーツは、否、スポーツ学は、どのように寄与することができるのか。学兄の叡智を参考にしつつ、手探りでその活路を見出していかねばなりません。その取り組みは、地道でありながら、きっと未来を豊かにしていくことに繋がると信じて疑いません。学術の灯を絶やすことなく、新たな時代にむけて地道な布石を為していくことが肝心です。

いわずもがな、今年度に開催予定であった東京五輪2020も先送りとなり、ひいては、その他のスポーツビッグイベント（高校総体や高校野球、インカレ等を含む）でさえも、開催が危惧される今日となっております。様々なスポーツの祭典に心躍らせていた関係者や愛好家の皆さんも、今は、ひっそりと次のステップへの期待を膨らませておられることと思います。

思い返せば、2019ラグビーワールドカップで本邦が生み出したレガシーを、これからのスポーツ界のみならず、日本の文化として継承していくために、五輪への期待は膨らむばかりでした。多くのアスリートが、この機を境に、人生の大きな挑戦に対峙しようとしています。その側面への学術的寄与についても、今後、継続的に議論をしていきたいと考えております。

本号を発刊するにあたり、投稿者をはじめ、査読および編集作業にご貢献いただきました先生のお名前を列挙し、ここに感謝を申し上げます。

編集協力者氏名：大西 祐司，川合 英之，北村 哲，黒澤 毅，黒澤 寛己，豊田 則成，西条 正樹，
襦屋 光男，林 弘典，村瀬 陽介，山本 達三

びわこ成蹊スポーツ大学 図書・学術委員会 委員長
兼 紀要編集専門委員会 委員長
豊田 則成